

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310104009	設置等組織名	医療保健学部 健康デジタル学科（仮称）
大学名	東京医療保健大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京都	事業計画名	医療保健学部における健康デジタル学科（仮称）の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		①令和5年8月 新学科開設準備室立上げ ②令和5年8月～令和6年3月 ステークホルダーへの構想・実現に関する聞き取り・WEB調査等（ニーズ・市場開拓）（初年度分） ③令和5年8月～11月 3つのポリシー策定・カリキュラム案策定・学内承認 ④令和5年10月～12月 高校生等との対話・ワークショップ等による発信（マスメディア、Owned Media含） ⑤令和5年10月～12月 産業界との対話・勉強会・ワークショップ等による発信（コンソーシアム、医療施設等） ⑥令和5年9月～令和6年2月 基幹教員・その他教員の確保準備 ⑦令和5年10月～令和6年3月 カリキュラム準備（初年度分） ⑧令和5年10月～令和6年3月 施設・設備等の検討、新学科開設の各種準備（初年度分）	①令和5年9月1日に健康デジタル学科（仮称）設置準備室を創設した ②各高校を訪問しニーズ調査を行うとともに、大学市場やスポーツ関係者、ヘルスケア産業関係者へのヒアリングを行った。さらに、当初の計画を踏まえて、ヘルスケアとスポーツとIT（AI・データサイエンス）を掛け合わせた新学科コンセプトを実現する新学科プランをコンサル企業(サグセスホルダース社）と検討・精査し市場性、入試広報戦略、学生キャリアパス等を作成し、学内に諮った。スタディプラス社と取引基本契約を締結し、WEBによるニーズ調査を関東エリア中心に行う予定であったが、WEBによるニーズ調査は行っていない。 ③令和6年度に予定を後倒しすることとなった。 ④令和6年度に予定を後倒しすることとなった。 ⑤スポーツ業界、医療業界、大学市場の企業との対話を通じて、新学科のプラン（コース設定、カリキュラム、広報戦略）など意見交換を行った。対外的な発信までには至っていない。 ⑥新たに採用する教員については人脈を通じて声かけを行い、一部教員については非常勤講師として採用を行ったが、計画を1年延長したため、基幹教員他の確保は令和6年度以降に予定を後倒しすることとなった。 ⑦カリキュラム準備に関しては、計画を1年延長したため、令和6年度以降に予定を後倒しすることとなった。 ⑧事業遅延届（下記※参照）を提出しても報告のとおり、予定していた新キャンパス用の物件が確保できず、キャンパス計画を見直す必要性が生じた。現、五反田キャンパス内に新たに設置する方向で検討を行っている。初年度は、令和6年夏頃～令和7年3月を予定している。 ※事業遅延届（令和6年1月20日、東医保理第1-025）を提出し、内容の確認・訂正などがあり令和6年2月28日に受理いただきました。	R5年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 取組状況に記述したように、キャンパス計画を見直すことを余儀なくされたため、新学科開設年度を令和7年4月から令和8年4月に後ろ倒しすることとなった。 （事業遅延理由）新学科は、学生募集の観点から新棟建設も含めたスペース確保のため、世田谷と五反田にキャンパスを設置する計画であった。しかし、予定していた五反田近辺のオフィス賃貸契約が、当初の交渉時に比べ、借り受け可能面積が3分の2に縮小された上、賃借料の交渉も行き詰まったことから、当初予定通りの賃貸契約を締結することが困難になったためその計画を断念し、現在の五反田キャンパス内での施設の改修等も含めた新たなキャンパス計画が必要になった。そのため、新学科の開設時期を令和7年4月から令和8度4月に変更することとし、キャンパス施設整備に関しても1期、2期工事それぞれ1年後ろ倒しすることとなった。 （対応策）①他目的で使用している五反田キャンパスの一部施設を改修、②ICT活用による遠隔やオンデマンド講義の比率を高め、新しい学修スタイルに深化し教室計画を見直す、③ICT活用による遠隔授業の比率を高めることにより、社会人学生や発達障害等の障害のある学生等多様な学生に門徒を開き、学びの場を保证するとともに、現有的に限られた教室スペースを有効活用する
				R5年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2前倒し				○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和6年3月 医療保健学部健康デジタル学科 設置認可申請予定			
フェーズ1後倒し		①令和6年4月～令和6年10月 ステークホルダーへの構想・実現に関する聞き取り・WEB調査等（ニーズ・市場開拓）（2年度分） ②令和6年4月～令和6年5月 カリキュラム準備（2年度分） ③令和6年4月～令和7年3月 施設・設備等の検討、新学科開設の各種準備（2年度分）	令和6年2月28日に事業遅延届をご承認いただき、キャンパス計画の見直しを行う一方向、本事業の計画においては、業界関係者、コンサルティングファーム等と協議しながら、特定成長分野の人材育成という命題を実現するため、社会（健康・スポーツ・ヘルスケア）とIT（データサイエンス・AI）を掛け合わせる工学系の新たな新学科の戦略的な事業計画の検討を行っておりました。しかし、本学を取り巻く外部環境は想定以上に変化しており、多くの大学でデータサイエンス系の学部学科が新設されることもあり、学生募集は予断を許さない状況となっているとの分析に至った。 以上を踏まえ、約7か月間、新学科のプランを検討してきたが、令和6年度末に設置認可申請を行うにあたり、入学意向調査で定員100%を確保することは、非常に厳しいと経営判断し、新たなキャンパス計画も白紙に戻すこととなり、令和6年4月1日に事業廃止の方針が学内決定した。 令和6年4月1日の学内における事業廃止の意思決定を受けて、令和6年4月2日には独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に事業廃止のご相談をさせていただきました。その後、廃止に向けた手続きについて、内容の確認や申請方法などご指導いただき、令和6年11月28日付けで事業廃止のご承認をいただきました。	R6年度自己評価	【1】計画を実施していない。 （事業廃止の理由） 本学がターゲットとした特定成長分野の社会的ニーズは一定数はあるものの、学科再編ができるまでの市場性がないこと、データサイエンス系学部学科の受験競争が激化し、安定した学生募集の目途が立たないことが事業を廃止する大きな理由である。 （課題） 定員確保に苦労している医療情報学科を再編し財政基盤の安定化は必須である。本助成事業の事業廃止したことで、助成金に頼らない自前の学科再編策の検討が急務である。 （対応策） 医療情報学科は、看護学科（五反田キャンパス）、医療栄養学科（世田谷キャンパス）と共に医療保健学部の一学科である。現在、令和8年度に向けて学科再編からステージを一段上げて、医療保健学部全体のリストラクチャリングを検討中である
				○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和7年4月 医療保健学部健康デジタル学科開設予定（入学定員80名、工学関係、保健衛生関係）			
フェーズ2後倒し		①令和7年4月 新学科施設整備 第2期（令和8年2月完成） ②令和8年3月 施設利用開始		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3		①令和7,8,9,10年5月 新入生交流会（学生会・事務部連携） ②令和7,8,9,10年6月 高校教員等対象説明会・交流会（新市場開拓PR・広報部門連携） ③令和7,8,9,10年6月 保証人懇談会（進路選択分析・学生生活フォローアップ・学生支援センター連携） ④令和7,8,9,10年10月～12月 ステークホルダー聞き取り・WEB調査 ⑤令和8,9,10,11年1月～5月 点検評価・学内報告会（5月） ⑥令和7,8,9,10年10月～12月 高校生対象「健康・スポーツ×デジタルコンテスト」を実施 ⑦令和7,8,9,10年10月～12月 産業界対象「これから期待される人材と大学」（学生支援センター連携） ⑧令和7,8,9,10年10月 他大学との連携シンポジウム（令和10年総括シンポジウム）		○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止					